

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870500638
法人名	特定非営利活動法人 ワーカーズ・コレクティブひと
事業所名	グループホーム夕日館
所在地	愛媛県新居浜市萩生2720番地の1
自己評価作成日	平成28年10月31日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成29年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>民家を改修し、宅老所からスタートし介護保険開始時よりグループホームになりました。現在は女性5名・男性1名で敬いいたわりながら暮らしています。本当の家族のように悲しいことには涙し、喜びは分かち合い、時にはいさかいもありますがお互い受け入れて、住み慣れたところで馴染みの人に囲まれて、最期までのんびり気ままに暮らすお手伝いできればなあと考えています。利用者様やご家族・ワーカーが何でも話し合え、お互いを認めあいながら接することができるように実践していきたいと思っています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>民家改修型のグループホームであり、馴染みのある環境作りを大切にしているのんびり気ままに暮らせるような取り組みをすすめている。</p> <p>食事は、利用者や相談しながら、好み等を踏まえて作っており、利用者から煮物等のつくり方等を教えてもらうようなことも多い。野菜のいただきもの等も多く、旬の食材をふんだんに使った献立となっている。調査訪問日には、遅めの朝食をとる利用者の様子が見られた。又、昼食時には、医師から看取り時期と言われている利用者も自分の力でゆっくりと食事を食べすすめていた。</p> <p>法人では、職員の家庭状況等も考慮して働きやすい職場作りに取り組んでおり、職員は子供や孫を連れて勤務することもある。職員同士が相談に乗ったり、助言したりしてサポートし合っている。忘年会等で職員同士の親睦を深めており、長年勤務する職員が多い。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム夕日館

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

高橋 光子

評価完了日

28年 10月 31日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 『のんびり、気ままに過ごしましょう。～住み慣れたところで最期まで～』 理念は全職員で考えた。玄関・台所・に掲示、日報に記載し、常に共有し実践できるよう心掛けている。	
			(外部評価) 民家改修型のグループホームであり、馴染みのある環境作りを大切にのんびり気ままに暮らせるような取り組みをすすめている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に加入し清掃活動や総会などに参加し、祭りの寄付の協力をさせていただいている。地域にご親族のおられる方が入居されており、会いに来られている。運営推進会議や当事業所が開催するお月見にお誘いし交流させていただいている。	
			(外部評価) 自治会の清掃活動には職員が参加している。地域に向けて法人の通信「ひとごち」を配布しており、見た人から介護相談等がある。昨年は、事業所の縁側を利用して地域のコミュニティー活動「えんがわカフェ」を2回行なったがその後は休止となっている。法人本部で行う餅つき等の行事の折は、地域からの参加者もあり、職員が送迎等を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ワークキャンプ活動に参加し、認知症の理解や支援について学生の方々に実践を通じ学んでいただいた。また、自治会清掃の時等に相談を受けたりすることもある。相談内容によれば、当事業所スタッフだけではなく、法人理事長、居宅介護支援専門員にも相談している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 入居されている皆さんの生活状況や夕日館の活動状況を報告している。ご意見をいただいたときは、職員と話し合い今後のサービスに活かすようにしている。また、要望や質問等あった場合には、意見交換をしたり相談等している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>近況報告は、動画を見てもらいながら具体的に行っており、参加者個々に意見等を聞いている。会議時には、お茶とお菓子を用意しているが、利用者から「せっかく来てくれているのだから食事を振る舞ってはどうか」と提案があり、次回会議では、一緒に食事する機会を作った。</p>	<p>さらに、事業所の強みや課題等を示して、メンバーと話し合ったり、協力や理解につながるよう取り組みをすすめていってはどうか。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市へメールで待機者状況の連絡をしている。、生活保護の方も入居されており、福祉課とも密に連絡をとっている。運営推進会議には包括支援センターの担当職員が参加され、意見をいただいている。また、2か月に1回程度介護相談員も来所されている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議に市や地域包括支援センターの担当者が参加しており、地域の方からの質問等を受けて、グループホームの役割や介護保険について説明してくれている。介護相談員の訪問があり、利用者とお話している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束をしないケアに全員で取り組み、どのような時どのようなことが身体拘束に当たるのか、内部研修をして共有している。日中は玄関は施錠せず、入居者が自由に入出りできるようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関は施錠しておらず、好きな時間に散歩に行く方もいる。家族からの強い希望で、おむつにつなぎ服で過ごしていたケースがあったが、事業所での支援について家族に説明して実践し、改善している事例がある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待の内容を全員で共通理解できるように内部研修を行っている。また、職員同士が相互に心理的な虐待の可能性などを指摘し合い、事業所会等で話あっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修への参加や勉強会を実施し、必要に応じてご家族への情報提供を行い、成年後見制度の利用に繋がった。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、法人理事長及び管理者が契約書・重要事項説明書・運営規定・情報提供票などの内容に沿って説明し、入居者・ご家族等の不安や疑問を伺い、理解していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置している。また、ご家族が来所された時には声をかけ、利用者の報告やご家族からの意見要望等お聞きできる雰囲気づくりをしている。利用者・ご家族の意見や要望は、職員・法人理事長と話し合い運営に反映できるよう努力している。 (外部評価) 行事の際には、全家族に案内しており、その日に併せて家族会を開いている。現在参加者は限られているが悩みごと等があれば聞いている。家族は月1回、利用料金を持参しており、その折に利用者の状況を報告している。又、気になることや変化等があれば、その都度電話で連絡をしている。	今回の家族アンケート結果について話し合い、家族とのつながりを作っていくような取り組みに工夫を重ねてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			月1回開催している事業所会・定例会で職員の意見や提案を聞き、運営に反映できるように話し合い努力している。	
			(外部評価)	
			法人では、職員の家庭状況等も考慮して働きやすい職場作りに取り組んでおり、職員は子供や孫を連れて勤務することもある。職員同士が相談に乗ったり、助言したりしてサポートし合っている。忘年会等で職員同士の親睦を深めており、長年勤務する職員が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			当法人は、「雇われない働き方」一人ひとりが経営者であり労働者であるという自立した働き方なので、各自が個々の環境・条件の中で、やりがいや向上心を持って働けるように努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			職員各々が研修に参加できる機会を設けている。研修で学んだ内容を内部研修で職員全員に情報共有するとともに、本人のスキル向上を図っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			地域密着型の相互研修などに参加し、相互訪問を通じて他事業所の職員と交流し参加しサービスの質の向上を図っている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			事前面接や見学時に、困りごと不安、要望等じっくりご本人にお聞きしている。また、在宅担当介護支援専門員や事業所・家族からも情報や要望をお聞きしている。入居後も安心して暮らしていただけるよう、その時々に応じてお話を聞かせていただいている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居申し込み時や事前面接・見学時に必要な情報を事前にご家族から伺うだけでなく、ご家族が困っている事、不安な事、要望などを伺い、ご家族にも安心していただけるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居者を支援していく中で、ご本人やご家族等から得た情報をもとに職員で話し合い、必要としている支援を見極め計画を作成している。必要に応じて地域資源も活用している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 共同で生活するという事を意識し、調理の下準備や掃除等、利用者一人一人が役割を持って生活し、一緒に楽しんだり笑ったり共に過ごすことができている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 外出や行事には、ご家族にも声かけし入居者と一緒に楽しんでいただいている。ご家族には、ご家族にしかできない心の支えという支援をしていただいている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居者がこれまで築いてきた関係が途切れないように、馴染みの人が訪問しやすいオープンな雰囲気作りを心掛けている。入所前に利用していた理容院や趣味の集まり、同一法人内デイサービスに行き、お仲間や慣れ親しんだ場所で過ごせる支援をしている。 (外部評価) 家族が事業所に足を運ぶ機会作りとして、毎月の利用料は、持参してもらっている。又、持参が難しい家族には、理事長が自宅まで集金に行き、ゆっくり話を聞いている。家族には、来訪を喜んでいる利用者の気持ちを伝える等して、利用者との関係作りに取り組んでいる。調査訪問日の昼食後には、入居前から続けている将棋の会に参加できるよう、持参するお茶を用意したり、送迎していた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者間の日頃の様子に気を配り、相性や身体状況を考慮し、居間の席の位置など工夫している。入居者が共に過ごす時間を大切にし、レクリエーションや食事など職員も関わりながら、居間で過ごせるように声掛けを行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了した(死亡)入居者のご家族が、今でも新聞で折ったゴミ袋を持って定期的に訪問して下さったり、また遠くに住んでいるサービス利用が終了した(死亡)入居者のご家族よりお便りを頂いたり、帰省時には訪問して下さり交流を持っている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居者の思いや意向、日々の言葉・表情等で得た情報を共有し、職員間で意見交換しながら検討している。 (外部評価) 日々の介護記録に利用者の言葉を記入するような仕組みを作り、思いや意向の把握に取り組んでいる。又、おやつを選んだり、飲み物や食事メニューを相談する等、生活の中で利用者が選んだり決めたりする場面を多く作っている。	職員は、勤務年数が長いこともあり、利用者のことをよく知っているが、利用者が意思表示が難しい状態になっても、支援の手がかりとなるように、利用者のこだわりや大切にしてきたこと、終末期の過ごし方の希望等について情報を蓄積していくような取り組みも期待される。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境をアセスメントし、居宅介護支援専門員から情報を頂き職員間で共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 心身状態等を毎日記録し、入居者一人ひとりの日常生活リズムを把握し、出来ることに目を向けながら定期的にアセスメントをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ケアカンファレンスを開催し、本人・家族・職員・医療関係者などに意見を求め話し合い、介護計画を作成している。また、定期的にモニタリングし、ケア目標を見直している。(期間は一人ひとりに合わせている)</p> <p>(外部評価) 家族には、電話等で要望を聞き、ケアプランに反映しており、送付して確認してもらっている。日中不穏な状態のことがある利用者については、観察して「本人は賑やかな所が嫌いなのでは」という職員の気付きをもとに、そのような様子の時には、違う場所で過ごせるよう支援しているような事例がある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 最初は近場の散歩、時には一緒、時には見守りだった方が少しずつ遠くに行けるようになり、そこで出会った幼稚園の方とも交流が持てるようになり受け入れて下さるようになった。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 家族状況、入居者一人ひとりの希望に沿い、外出・散髪・デイサービス参加などの支援をしている。また新しく生まれるニーズに対応できるよう、定期的に希望を伺っている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) ボランティアの太鼓やカラオケに来ていただいている。地域の趣味の将棋の集まりに参加されているので、続けていけるように支援していく。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 入居者・家族の希望により、訪問看護・主治医には24時間連絡可能な状態で、個々の主治医に往診・受診していただいている。往診・受診時には職員も立ち合い入居者の情報を主治医に報告している。また必要があれば、入居者・家族・主治医と相談し協力医院の紹介をしている。</p> <p>(外部評価) 訪問看護ステーションと契約しており、毎日利用者のバイタルサインを表にしてFAXで送付している。又、週1回訪問があり、利用者の健康管理を行っている。病院受診に家族が付き添う場合も職員が同行して医師の説明と一緒に聞いている。運営推進会議時には、訪問看護の方の協力を得て、脱水や熱中症予防について研修したり資料をもらったりして行っている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 24時間連絡可能な訪問看護ステーションと契約し、毎日の健康状態(バイタル等)を報告している。また、いろいろな気づきも伝え、状態の相談をしながら適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入居者が入院した場合は、病院に情報を提供したり、家族と共に治療の方針や早期退院に向けたカンファレンスに参加している。又、安心して治療が出来るように、病室訪問をし支援している。入院前後の受診には、家族と共に行くようにしている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居時、重度化した場合や終末期(看取りの指針)の話し合いをしている。又、家族の気持ちは揺れ動くので、その時々状況で繰り返し話し合いを行っている。担当者会議等で本人、家族、必要な機関と話し合い、方針を共有しチームで取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 家族は「最期まで任せる」という方が多い。居間との続きの間に居室があり、看取り支援の時期には、間の襖を開けて、誰かの見守りがある状態で過ごせるようにしている。運営推進会議時には、看取り支援の事例報告を行ない、茶話会しながら思い出話等をして故人を偲んだ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故時のマニュアルを作成している。定例会で研修をしたり、ケアカンファレンス時確認、訓練など重ねている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 日中・夜別で緊急連絡の訓練をしている。また、消防署に協力を得て避難訓練を行い、避難経路等の確認を行っている。防災グッズ・非常食を定期的に点検し、災害時には一時避難先として近所の方をお願いしている。 (外部評価) 年2回、避難訓練を実施している。その他には、夜間の災害を想定して、実際に職員の緊急連絡網を回し、駆けつける訓練を行った。地区の防災訓練には職員が参加した。今後は地元消防団とのつながりづくりに取り組み、協力をお願いしたいと考えている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者一人ひとりの人格を尊重する言葉かけや対応を心がけている。また、プライバシーに気を付け、プライドを傷つけないように心がけている。 (外部評価) 新人職員には、先輩職員が声のトーンや言葉遣い等についてアドバイスをを行っている。建物の限られた空間で、利用者同士、又、職員との距離が近く、スキンシップしたり、言葉掛けしたり、冗談を言ったりして和やかに過ごせるような雰囲気を作っている。時に、利用者同士でけんかになったりするが、職員が仲に入ったり、時間の経過で解決するようだ。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 個々の話や言葉をよく聞き、状況を見極め希望に沿えるよう支援している。自己決定可能なものについては自己決定できるように働きかけている。例えばその日食べるおやつをご自分で選んでいただいたり、その日に着る洋服もその日の気分でどれがいいか選んでいただくようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 共同生活上での流れを大切にしながらも、入居者一人一人のペースや思いを大切に、自己決定して頂き、可能な限り希望に沿った支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 散髪は、馴染みの理容室に家族と出かけたり、訪問美容を利用したりしている。また、洋服を自分で選べる方は自分で選んでいた。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理の下準備(じゃが芋の皮むき、ゴボウの笹がき、エビの皮むきなど)や食器洗いを、時には職員と一緒にしている。料理の作り方などを教えていただく事もある。	
			(外部評価) 食事は、利用者と相談しながら、好み等を踏まえて作っており、利用者から煮物等のつくり方等を教えてもらうようなことも多い。野菜のいただきもの等も多く、旬の食材をふんだんに使った献立となっている。調査訪問日には、遅めの朝食をとる利用者の様子が見られた。又、昼食時には、医師から看取り時期と言われている利用者も自分の力でゆっくりと食事を食べすすめていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一日の食事や水分は、適切な量が摂取できるようにその都度記録している。 必要に応じて食事形態を変え、口から食べる工夫をして一人一人に合わせた支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 入居者一人ひとりで支援の方法は異なる。口腔ケアへの声掛け、お一人では口腔内の清潔保持が難しい方には、できない部分を見極めて支援を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>介助無しで自力歩行される方、尿意を伝えてくださる方以外は定期的に声掛けし、トイレ誘導している。またテープ式オムツを普段利用されている方も排便はなるべくトイレ使用をしていただける様支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>排泄記録等をもとにして支援を行っている。外出前には「トイレに行っておきませんか」と声をかけ、本人は「大丈夫」と断ったが、時間を置いて再度声かけて支援していた。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>入居者一人一人の排便のパターンを把握し、食事・水・レクリエーション運動で排便を促すよう工夫している。また、医師の指示の下、便秘薬も個々に応じて適切に服薬支援している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者個々の希望や体調にあわせて、入浴の支援を行っている。基本的には週3回の入浴日を設定しているが、臨機応変に対応するように心がけている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居前の見学時に浴室も見てもらい、事業所の入浴支援について説明を行っている。浴室は、タイル貼りで深めの浴槽が設置してあり、職員は空間の制限をうまく利用しながら「気持ちよく出られるよう支援」を意識して支援している。利用者の状態によって、必要時には職員2名で支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>体調や前夜の睡眠時間により、日中の休息等声掛けし促している。また安心して気持ちよく眠れるよう、離着床など個々のペースに合わせて支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は、処方箋や訪問看護師の助言もあり、薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。また、服薬状況・服薬による変化は記録し、必要である場合には医療機関に相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯たたみや掃除、食事の下ごしらえ等役割を持って過ごされている。また、散歩やカラオケや趣味の将棋で気分転換できるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 時間を決めず自由に散歩をしていただいている。日々の何気ない会話の中にある利用者の希望を聞き逃さないようにしている。職員間で利用者の望みについて話し合い、希望に応じて家族にも声掛けさせていただいている。	
			(外部評価) 日常的に散歩したり、庭に出て花火をしたり、花壇の手入れをしたりして過ごすことを支援している。職員は、利用者が安心して散歩ができるように、地域の方々と日頃から挨拶等して関係を作っていきたいと話していた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人でお金の管理が出来る利用者は普段からお金を所持されており、外出の際等で買い物をされたりしている。個人でお金を管理する事が難しい方はご家族と相談し、お金の使用の大切さを職員が理解したうえで、支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望により固定電話を使用される。家族や大切な方といつでも連絡できるよう、必要であれば介助を行っている。年賀状や手紙を家族や大切な方に送ることができるよう支援を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>夕日館が民家改修型のグループホームなので、入居者が昔から暮らしてきた馴染の空間である。室温や湿度には特に注意を払っている。部屋のレイアウト等、季節を感じながら居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関周りには花壇を作り、玄関の棚には羽子板を飾り、所々に餅花を飾っていた。玄関の敷居や踏み段等、段差があるが、手すりを付けている。居間には金魚の水槽があり、ソファーやいすに座って、おしゃべりしたり将棋したりして過ごしている。廊下の突き当たりに台所があり、食事をつくる職員の後ろ姿が見えて、食事ができる匂いがしていた。スプリンクラーや火災時の通報装置等を設置している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>賑やかな場所が嫌いな方、お話し好きな方等一人一人が窮屈な思いをしないよう、その人その人に合わせた支援をしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居時に、本人・家族と相談の上使い慣れた好みの家具や寝具を持ってきていただいて、居心地よく過ごせるよう支援している。また、ご家族の写真や思い出の品を飾れるような工夫をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>2人部屋は、カーテン等をつけ区切って使用している。入居時には、必要最低限のものを持って来てもらい、事業所に慣れて来てから一緒に必要なものを取りに自宅に戻る等して、馴染のものを持ち込んでいる。利用者によっては、ダンスを持ち込んでいる。温度計を付け職員が室温管理を行っている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>一人一人の状態に合わせて、安全かつ手すりを使用し、一人で移動したり等本人が出来る事が増やせるように支援している。</p>	